

令和6年度 自己成長感に対する質問紙調査結果 (PTGI)

項目ごとの平均値

	成長因子	R6 n=79	R6			R4	R5	R6	
			1年	2年	3年				
Ⅰ 他者との関係	6. トラブルの際、人を頼りに出来ることが、よりはっきりと分かった。		4.4	4.4	4.6	4.6	4.6	4.5	↓ ※
	8. 他の人達との間で、より親密感を強く持つようになった。		4.6	4.7	4.7	4.7	4.5	4.6	↑ ※
	9. 自分の感情を、表に出しても良いと思えるようになってきた。		3.6	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	↓
	15. 他者に対して、より思いやりの心が強くなった。		4.7	4.7	5.0	4.9	5.0	4.8	↓ ※
	16. 人との関係に、さらなる努力をするようになった。		4.5	4.7	4.8	4.7	4.7	4.7	→ ※
	20. 人間が、いかにすばらしいものであるかについて、多くを学んだ。		3.8	3.8	4.5	4.1	4.4	4.0	↓
	21. 他人を必要とすることを、より受け入れるようになった。		4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	↓ ※
Ⅱ 新たな可能性	3. 新たな関心事を持つようになった。		4.7	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	→ ※
	7. 自分の人生に、新たな道筋を築いた。		4.4	4.8	5.2	4.6	4.7	4.8	↑ ※
	11. 自分の人生で、より良い事ができるようになった。		4.1	4.2	5.0	4.5	4.6	4.4	↓
	14. その体験なしではありえなかったような、新たなチャンスが生まれている。		4.2	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	↓
	17. 変化することが必要な事柄を、自ら変えていこうと試みる可能性が、より高くなった。		4.3	4.6	4.8	4.5	4.6	4.6	→ ※
Ⅲ 強人感として	4. 自らを信頼する気持ちが強まった。		3.2	3.8	4.5	3.8	4.2	3.8	↓
	10. 困難に対して自分が対処していけることが、よりはっきりと感じられるようになった。		3.8	4.1	4.6	4.3	4.2	4.2	→
	12. 物事の結末を、よりうまく受け入れられるようになった。		3.9	4.2	4.7	4.5	4.5	4.3	↓
	19. 思っていた以上に、自分は強い人間であることを発見した。		3.5	3.0	4.4	3.7	3.7	3.6	↓
Ⅳ 精神的変容	5. 精神性(魂)や、神秘的な事柄についての理解が深まった。		3.1	4.4	4.5	4.2	4.1	4.0	↓
	18. 宗教的信念が、より強くなった。		1.8	2.0	2.6	2.6	2.4	2.1	↓
	22. 人生の意味についてよりはっきりと自覚するようになった。		3.6	4.0	4.4	4.1	4.0	4.0	→
	23. 生死にかかわる問題とより向き合えるようになったと感じている。		4.3	4.6	4.7	4.7	4.7	4.5	→ ※
	24. 自分があらゆる存在とよりつながっていると感じている。		3.6	4.4	4.2	4.3	4.5	4.1	↓
	25. 世界との調和という感覚がより強くなった。		2.5	3.7	3.9	3.5	3.4	3.3	↓
Ⅴ 人生感謝に関する	1. 人生において、何が重要かについての優先順位を変えた。		4.0	4.5	4.5	4.2	4.5	4.3	↓
	2. 自分の命の大切さを痛感した。		4.2	4.8	4.9	4.6	4.9	4.7	↓ ※
	13. 一日一日を、より大切にできるようになった。		3.8	4.7	4.7	4.2	4.7	4.4	↓
※:令和6年度:4. 5以上 R6=10 R5=16 R4=12									

『自己成長感』

- ・全体的に「Ⅰ 他者との関係」「Ⅱ 新たな可能性」「Ⅴ 人生に関する感謝」の因子が高いのは、昨年度までと同じ。
- ・令和5年度のみ「Ⅴ 人生に関する感謝」が高値を示していた。
- ・「Ⅴ 人生に関する感謝」が令和5年度より0.5下がり、「Ⅳ 精神的変容」も0.2下がっているのが気になる。
- ・「Ⅴ 人生に関する感謝」は1年生と3年生で、「精神的変容」は1年生の低さが影響している。
- ・「Ⅳ 精神的変容」の1年生は3.2と過去にない低さであるため強化が必要か。
- ・上昇した項目は2 (R5=11)、下降した項目は17 (R5=6)、横ばい項目は6 (R5= 8)だった。
- その内、平均値4. 5以上の項目は、令和5年度が16に対し、令和6年度は10と減少している。
- 看護実践能力や看護技術の到達度と同様に旧カリキュラムより低い結果であった。
- 影響因子は令和6年度の長期目標の評価参照。

『自己成長認識』

- ・学年進度と共に9割の項目で上昇し、最終学年の3年生に下がっているものはなかった。
- ・令和5年度よりも9項目全てで下がっていたため自己肯定感や効力感が低いのかかもしれない。
- 臨地実習の自己評価は高めの傾向があるため、自己評価力自体が課題にあるかもしれない。
- 承認欲求を満たす、もしくは、できていることをより明確に伝えるようなレスポンスが必要か。